最大級複合施設 神戸で

あすか福祉会 関西進出、水平展開へ

ヘルスケア フォーカス

社会福祉法人あすか福祉会（長崎県対馬市）は今年3月、神戸市北区鳴子に高齢者複合施設を開設した。主に特別養護老人ホーム（120床）、介護老人保健施設（100床）、介護型ケアハウス（100床）、看護小規模多機能ホーム（定員29名）からなる、全国でも最大級の施設だ。素花源之理事長と、設計を務めたIAO竹田設計（大阪市）大阪第一事務所の田中聡副部長に話を聞いた。

社会福祉法人
あすか福祉会
素花源之理事長

IAO竹田設計
大阪第一事務所
田中聡副部長

▲施設外観。ベランダの屋根にこだわり

同法人は、九州北部及び埼玉・千葉・神奈川で展開してきた。「関西、特に兵庫県に進出したいと考えていたため公募に参加した」と素花理事長。同施設を拠点に、関西エリアでの水平展開を図る。

約1万7700平米の土地は兵庫県の所有であり、廃校が建っていた場所。この取り壊しを含め、総工費は約53億円を超える。人材については、現地で2000名超を採用した。

建物は、地域交流ホールなどを含む共用棟、特養・ケアハウス棟、老健棟の3棟からなる。設計担当の田中副部長は「3棟に分けることで巨大施設をヒューマンスケールに落としつつ、中庭を中心に一体感が生まれるよう配慮した」と話す。

防災コミュニティ拠点の機能も想定し、福祉避難所指定を取る方針。屋外空間では外部からも利用できる遊歩道に面して、廃校の記念碑や記念樹などを残し配置している。

このような大規模複合施設は西日本のみならず全国でも最大級という。現在、入居者数は特養90名、老健60名、ケアハウス25名（4月末時点）。7月には特養・老健が満室となる予定だ。なお、ケアハウスは要支援1以上で月額24～25万円と近隣のケアハウスより1万円ほど低く設定した上で、入居一時金は0円と企業努力を行っている。

同法人による看多機の運営は本件が初。外部との窓口となるサービスとして運営していく方針だ。看多機の登録者数は現在6名。平均要介護度は3で、在宅生活が難しい人や困難事例にあたる人のニーズに対応している。

◀3棟から望む中庭は緑豊か

ICT活用では、荷重式で体重測定が可能な点から、特養・老健全床にトーテック社の「見守りライフ」を初導入。サービスにおいてはディスカッションの機会を多く持ち、職員の意向を反映しつつ入居者によって柔軟に対応。「神戸市では、特に虐待をなくすための指導が多い。当施設でも充実した研修を活用し、地域のニーズに連動していく」（素花理事長）

全職員数約1400人の同法人では、10ヵ所の特養を運営している。加えて現在、千葉県と神奈川県に4棟建設中で、今年度末から来年度初頭に開設予定だ。また、埼玉県春日部市において新たに社会福祉法人も起ち上げるなど、勢いを増す同法人の今後の展開に注目が集まる。

▲リビングの内装。「和のリゾート」がコンセプト。共用棟のカフェでは、コーヒーなどを無料提供予定。企業内保育所も自法人で運営する。

トピックス

在宅医「危険感じた」4割

在宅医療推進議員連盟（東京都千代田区）は6月13日、総会を開催。一般社団法人日本在宅救急医学会の小豆畑丈夫理事は、22年2月に全国在宅療養支援医協会、在宅医療政治連盟の会員を対象に行った「在宅医療の安全確保に関する緊急アンケート」の結果を紹介。回答した150名のうち4割が身の危険を感じた経験があるとしている。

小豆畑理事は「在宅医療では、医療の場が患者の私的空間であり、さらに患者の私的情報を共有する。こうしたことが第三者の介入や退路の確保を困難にする。相談窓口開設など安全確保の仕組みを構築すべき」と言及。警察庁生活安全局生活安全企画課の岡田幸司課長補佐は「医師の安全確保のためさらなる関係構築が重要になる」とした。

また診療報酬について、全国在宅療養支援医協会大石明宣診療報酬部会長が、緊急往診加算の要件や往診対象場所の緩和を要望。特養の配置医師については「外部医師による訪問診療・往診対象となる疾患などの拡大を」と訴えた。